

こお・ひろお
康浩郎
監督作品

帰還船1959

고오 히로오
감독 작품

귀환선1959제일선

第一船

Koh Hiroo
Director's work

The Boat Home, 1959: The First Voyage

1959年12月14日、いわゆる北朝鮮帰国事業の第一次船が新潟港を離岸した。康はその出港の瞬間を自ら撮影していた。しかし、大学の卒業制作に向けた作品は、遂に完成されることなく60年が経過してしまう。

帰還船に乗り込むまでの帰国者と家族は、「在日」百年の間に無意識に身体化した文化資本(ハビトゥス)を《日常》としてきた。出港を告げるドラの音と共に船と岸壁とは無数のテープで繋がれ、やがて切れる…。その瞬間、帰国者はそれまでの《日常》から切り離され、ハビトゥスも消失したかと思われた。

現在、韓国への脱北者のなかに元在日がいて、日本にも既に200人以上が戻ってきている…という想像もなかった「事実」と向き合った康は、改めて、彼/彼女らに《あの瞬間》を見て貰おう…お見せする義務があると痛切に感じた。それがこのアーカイブ・フィルム作品である。

1959년12월14일, 조선인민공화국 귀국 사업의 제1차 귀환선(歸還船)이 일본 니가타항(新潟港)을 떠났다. 고오(康浩郎)는 출항의 순간을 자연스럽게 촬영하고 있었다. 하지만 대학교의 졸업 작품은 끝내 완성되지 못한 채 60년이 흐르고 만다.

귀환선에 올라타는 순간까지 귀국자와 그 가족은 '재일' 백년 동안 무의식에 박혀버린 문화자본(habitus)을 '일상'으로 여겨왔다. 출항을 알리는 징 소리와 함께, 배와 안벽은 무수한 테이프로 이어지지만 머지않아 끊긴다. 그 순간 귀국자는 지금까지의 '일상'에서 벗어나고 아비투스(habitus)도 소실된 듯했다.

현재 한국으로 탈북한 사람들 중에는 재일 출신이 있다. 그리고 일본에도 이미 200명 이상이 돌아와 살아가고 있다.

이러한 상상조차 못했던 '사실'과 마주한 고오는 다시 한번 그들과 그녀들에게 '그 순간'을 보여줘야 한다는 의무가 있음을 절실히 느꼈다. 그것이 이 아카이브 앨범 작품이다.



日時

10月2日(日) 14:30~17:00 (開場 14:00)

会場

東京大学駒場 | キャンパス KOMCEE レクチャーホール
京王井の頭線「駒場東大前駅」下車



キャンパス Map

参加費

無料

主催

科研費基盤 B・冷戦期の日韓の歴史問題と越境的市民運動の研究

協力

東京大学グローバル地域研究機構韓国学研究中心

申込方法

右記の Google フォーム、またはメールでお申し込みください。

お申込み・問い合わせ

cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp
(東京大学韓国学研究中心事務局)



<https://forms.gle/ErFpY7JpWn3azeudA>



諸注意

- 体温が37.5度以上の方、体調が悪い方はご遠慮ください。
- 新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある方はご遠慮ください。
- 手洗い、手指のアルコール消毒の徹底をお願いしております。
- ご鑑賞はマスク着用が必須となります。マスクを着用でない場合は入場をお断りいたします。
- ※飲食時を除く ※乳児(2歳未満)を除く、幼児は推奨
- 映像の録音・録画、SNSへの転載等は禁止とさせていただきます。

※Android スマートフォンでQRコードが読み取れない場合は、「Google レンズ」もしくはQRコード読み込みアプリをダウンロード後、再度お試しください。

協力: ニューズ・デザイン・ラボ (New Design Lab)